

か  
み  
は  
し  
か

- 錢貨二点の他、多数のほぼ完形の灰釉系陶器があり、この中には墨書土器も二〇点程度含まれている。
- 木簡は溝状を呈する不整形な落ち込み（S×O一）から一点出土した。遺構の時期は江戸時代前期に属するが性格は不明で、周辺には同時期の遺構も確認されていない。
- 8 木簡の釈文・内容
- (1) ・「十六」
- ・「」
- 68×49×4 011

やや平行四辺形を呈するが、二次的な整形ではなく原形を留めている。文字は右上から左下に斜めに記されている。裏面にも数行分の墨痕が確認できるが、不鮮明で釈読できない。



68×49×4 011

- 9  
関係文献

池本正明「上橋下遺跡」(愛知県埋蔵文化財センター「年報」平成二  
三年度、二〇〇〇年)

(池本正明)



された沖積低地の微高地上に○〇m<sup>2</sup>を調査した。その結果弥生時代、鎌倉・室町時代の遺構が検出され、前者としては方形周溝墓一〇基により構成される墓域が、後者としては湿地状の自然地形を利用した祭祀遺構が確認されている。祭祀遺構の出土遺物には、犠牲獣と考えられるウマの頭骨一点や